
兵庫県のオープンデータ推進の取組

2019.9 兵庫県 情報企画課

要旨

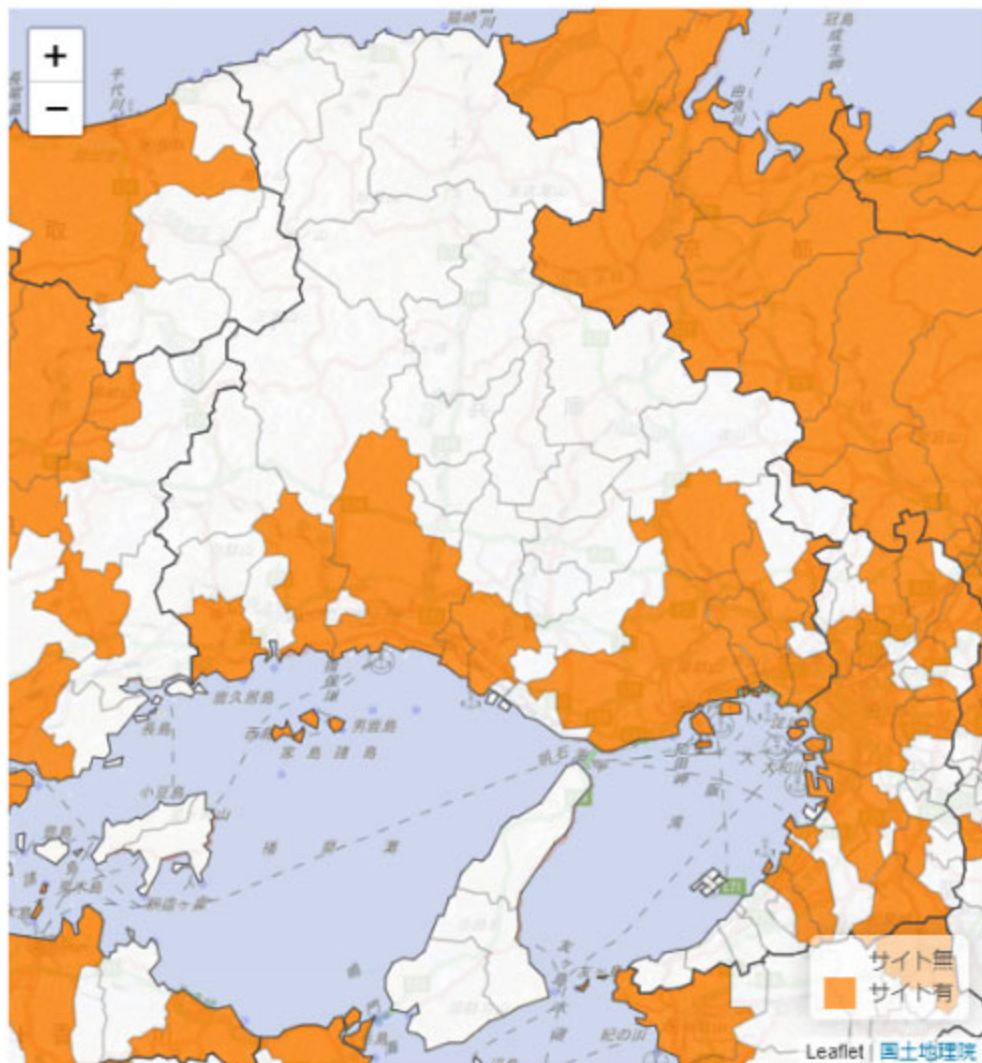
- 1 兵庫県内自治体の現状
- 2 兵庫県のオープンデータの取組
 2. 1 オープンデータカタログの開設
 2. 2 ひょうご・データ利活用プラン策定
 2. 3 取組事例の紹介

1 兵庫県内自治体の現状

県及び12市が公開。オープンデータの実組率 31%

全国自治体の実組率 33% (595/1,788自治体) をわずかに下回る

※令和元年6月17日時点



取組市町一覧

神戸市	姫路市	尼崎市	西宮市
芦屋市	加古川市	赤穂市	宝塚市
高砂市	川西市	三田市	たつの市

【参考】関西2府4県の実況

※自治体数は府県を含む

都道府県名	総自治体数	取組済自治体数	取組率
京都府	27	27	100%
大阪府	44	16	36%
兵庫県	42	13	31%
滋賀県	20	5	25%
奈良県	40	8	20%
和歌山県	31	4	13%

2. 1 オープンデータカタログの開設

まずは、基本方針を策定(平成27年3月)、その後カタログサイトを開設(平成27年4月)
公開可能なデータから順次公開 (スモールスタート)

1. 基本方針(抜粋)

1 データ公開、提供の考え方

(1) ニーズやコストを踏まえた公共データの公開、提供

公開にあたっては、取り組みにかかるコストも勘案し、効率的に実施することとし、社会的ニーズが高く、取り組み可能なデータから逐次、データカタログに掲載していく。(略)

(2) 機械判読可能なデータの公開、提供

データの変換にコスト・作業を要する場合には、当面、現在のデータ形式での公開、提供も可とし、段階的に、より利便性の高い高度利用が可能なデータ形式での公開、提供をめざす。

2. ライセンス 他

- ・ライセンスはCC-BY(表示)
- ・データ分類はHPに準拠
- ・掲載データセット数
149→253 (令和元年9月現在)
 - AED設置場所、犯罪発生状況
 - CGハザードマップの地図データ

3. 活用事例 ～ハザードチェッカー～

ひょっとしてここ、危ない？
そんな不安に回答
スマホから位置情報を送信
現在位置の津波、洪水、土砂災害の危険度を表示
→国土地理院2016年度
「防災アプリ大賞」

津波・高潮	
津波浸水想定区域	津波浸水区域外
津波浸水想定深	不明
高潮浸水想定区域	高潮浸水区域外
高潮浸水想定深	不明
洪水・内水	
洪水浸水想定区域	
洪水浸水想定深	0～0.5m未満(5段階) 1階床下浸水
内水浸水想定区域	判定用データ無し
内水浸水想定深	不明

使用データ CGハザードマップ

2. 2 ひょうご・データ利活用プラン策定

2019年4月「ひょうご・データ利活用プラン」を策定。4つの重点方針のひとつ「未来を創る ～イノベーションの創出～」の取組として「データのオープン化」を掲げる

1. 位置づけ

- ・「兵庫2030年の展望」がめざす「すこやか兵庫」の実現に向けたICTとデータ利活用の指針
- ・民・産・学・官が、ICTとデータ利活用の方向性を共有するビジョン
- ・「官民データ活用推進基本法」に基づく県の官民データ活用推進計画

2. 4つの重点方針

- ① 未来を創る ～イノベーションの創出～
イノベーションにより、産業力強化と社会システム変革の好循環を実現し、未来を創る、新たな価値を創出します。
- ② 活力を高める ～パフォーマンスの向上～
- ③ デジタル社会を支える ～基盤の強化～
- ④ スマート自治体をめざす～デジタル行政の推進～

3. 本文抜粋

『オープンにデータを公開することで、誰もが二次利用できる円滑なデータ流通を促進します。特に利用ニーズの高いデータについては、容易に利活用できるよう、機械判読可能なファイル形式や共通フォーマットでの公開に取り組みます。』

4. 県の役割

取組をファシリテート

- ・県と市町でデータ・システムの共有を推進
 - ・先進的な取組事例の他市町への横展開
- 後ほど、オープンデータWGの取組紹介

2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

オープンデータあるある(庁内側)

①笛吹けども踊らず

データを持っている
事業課がデータを
出してくれない

②笛を吹く側も萎える

多忙な中で、オープン
データ推進の優先度が
低くなりがち

2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

オープンデータを庁内で推進する際の阻害要因(仮説)

①ニーズが不明

本当にデータ使われるの？

②その割に手間

通常業務の中で作成していないデータ項目・フォーマットの作成・更新
カタログサイトへの掲載作業

③漠然とした不安

よくわからないけど、クレーム、トラブルがあるかもしれないので、回避



①笛吹けども踊らず

データを持っている事業課がデータ
を出してくれない

②笛を吹く側も萎える

多忙な中で、オープンデータ推進の
優先度が低くなりがち

2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

これらの阻害要因を取り除くためには？

- ①ニーズが不明
- ②その割に手間
- ③漠然とした不安

→ 様々なアプローチ方法があると思いますが、
この後の研修があるので、ここでは、
県の担当者が試行錯誤する中で見いだした
一筋の光明を紹介します

2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

オープンデータ推進のアプローチ方法(例)

「使う側」を体験→意義を実感

- 「阻害要因①ニーズが不明」に関しては、本来は、「そのデータが何に使われるか」を行政側が想定する必要はない。(と、よく言われます)
→使う側が決めること。出さないことには使われない。
- とはいえ、「②その割に手間がかかる」、「③漠然とした不安」
→「意義」を感じないことには、動かない
- 意義を実感するには、自らがオープンデータを使う体験をするのが一番

2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

オープンデータ推進のアプローチ方法(例):「使う側」を体験→意義を実感

課題解決型データ利活用研修

- ・ 県・市町職員の合同研修
- ・ あるべき姿と現状から、データを確認しながら仮説を立て、戦略を導き出すプロセスを体験
- ・ 実際の課題・データを使った実践的内容
(国、県、市、民間事業者のデータを使用)
- ・ 今年度(初開催)のテーマは観光・ツーリズム

<使う側を体験することで>

- ・ 必要なデータを検索・収集する作業の大変さ
- ・ データクレンジング作業の面倒くささ
- ・ 欲しいデータが公開されていなかった時の徒労感
(データそのものが不存在／集計後のみ公開)
- ・ PDFファイルへの憤り
などを体験



使いやすい形式でオープン
データが公開されている有難さ、
逆の場合の辛さを実感

2.3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

オープンデータ推進のアプローチ方法(例):「使う側」を体験→意義を実感

GIS活用の全庁展開

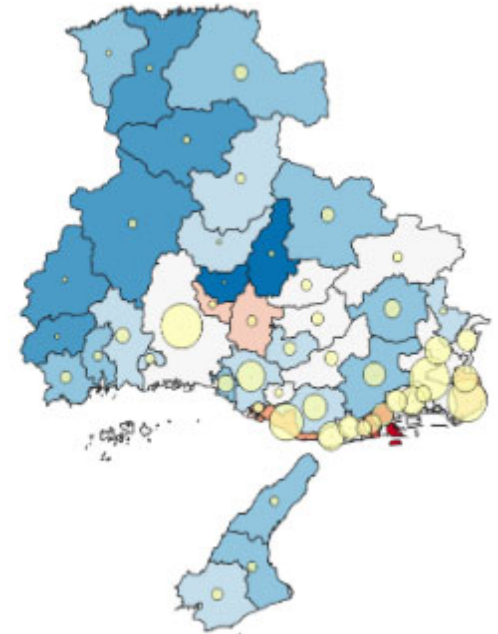
- ・ 庁内にQGIS(LGWANカスタマイズ版)のライセンスを配布
農林・土木系のほか、政策、福祉、観光、防災、教育、文化財など
多分野で活用(約40所属・200ユーザ)
- ・ 事務職・技術職で連携して操作研修を実施。詳細な操作マニュアル
を作成・共有
- ・ GISで利用できる各種データを集約・全庁共有

- 行政区域、道路・河川・施設位置 等
- 統計データをGISに表示できる形式に加工

- 高精度な3次元グラウンドデータ

国・県のオープンデータ/
各事業課の業務データ

各事業課の業務データ→近日オープンデータ予定



自分でイチからGISデータを作成する操作を実習
→既存データが公開・共有されている有難さを実感
これまで特定の事業課だけが保有していたデータ
→利用価値が高く、共有・オープンデータ化を希望

＜参加者アンケートより＞

- ・ 全庁の情報共有・オープンデータの集約を進めて欲しい
- ・ オープンデータの充実に期待
- ・ オープンデータは事務軽減にもつながると思う

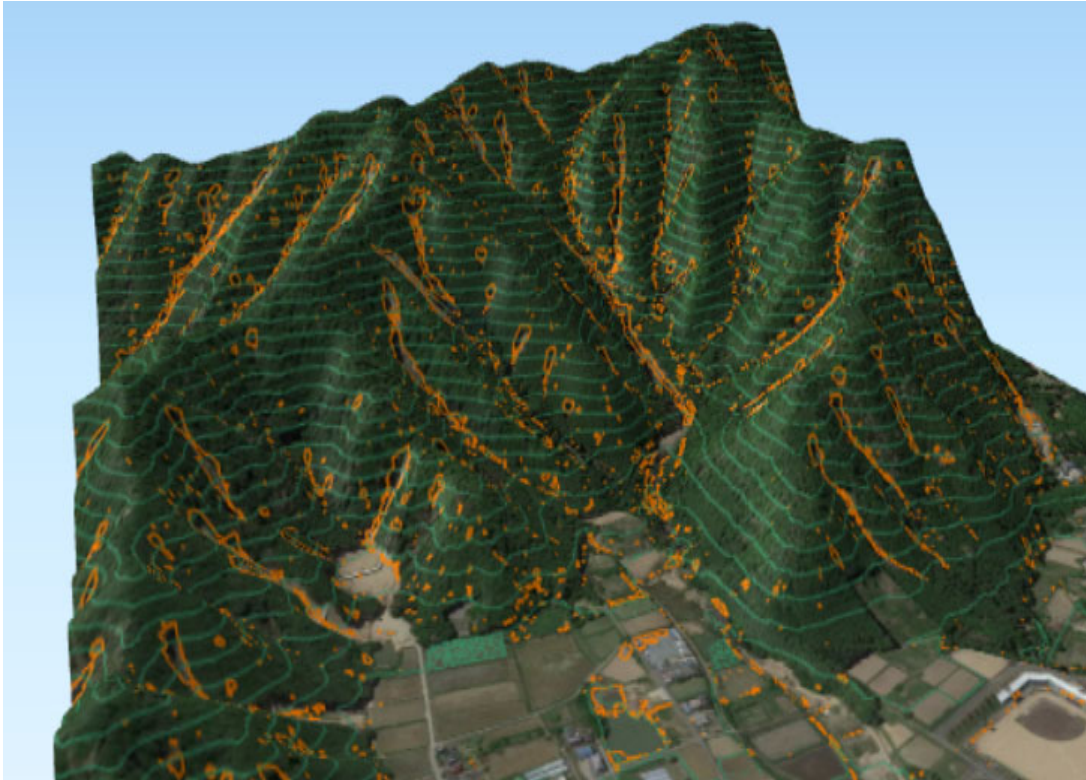
2. 3 取組事例の紹介(実務担当者の試行錯誤からの一考察)

特色あるオープンデータの例

高精度な3次元地理空間データ(グラウンドデータ)

- ・ H24～25年度に実施した航空レーザ測量データを加工して全県分の高精度(1mメッシュ)な地理空間データを作成(1mメッシュ全県分の公開は全国初)。9月後半公開予定
- ・ 今後、ドローン等で取得するデータとあわせ、地理空間データを集約・公開

[活用例:災害前後のデータで土砂災害発生範囲を抽出]



[民間事業者・研究者の想定活用例]

- ・ 土木工事、農林業での工事設計支援
- ・ 高精度3Dマップの作成
- ・ 登山アプリ(背景地図・標高データ)
- ・ ドローン自動航行ルート設定
- ・ 日照・通信環境のシミュレーション
- ・ 水脈分析
- ・ 高精度測位と3次元データの組み合わせ(除雪車の障害物回避走行等)

2.3 取組事例の紹介（実務担当者の試行錯誤からの一考察）

研修後、ソフトの活用・データ利活用に関する相談を受ける。サポートをすると同時に作成データのオープン化を促すことで、「オープン化のサイクル」を創出

